

HFAC 華梵大學藝術設計學院建築學系與『日藝』日本大學藝術學部設計學
科

國際學術、文化交流會

第一階段

日本木構造建築專家 深谷 基弘 教授演講座談會

時間 2011 年 4 月 12 日 · 17:30 - 19:30

場所 華梵大學藝術設計學院建築學系系廣場
22301 中華民國,台灣, 新北市石碇區華梵路一號

作成者 曾 永宏, 木村 政司, 桑原 淳司, Steven Hsiao

演講座談會主題
向棟樑的技術與思想學習—人與物的關連性
詳細 [棟梁の技術思想に学ぶ—ものとひととのかかわり]

演講人
日本大學藝術學研究科、日本大學藝術學部、深谷基弘 教授
<http://design.art.nihon-u.ac.jp/research/prof/fukaya.html>

演講座談時間
2011/4/12(星期二)17:30~19:30

演講地點
華梵大學藝術設計學院建築學系系廣場

座談會主持人、引言人
華梵大學藝術設計學院建築學系 徐裕健 教授
台北賓館、三峽老街、深坑老街等修護主持人
台北花博花茶殿設計建築師
中華民國第十一屆傑出建築師

座談會共同主持人
華梵大學藝術設計學院建築學系蕭百興主任

翻譯：日本大学 大学院 芸術学研究科
芸術専攻藝術學博士候選人 曾永宏

日本大學
藝術學部 設計學科
大學院 藝術學研究科
教授中、日文簡介

深谷 基弘
Fukaya Motohiro

中文簡介：

- 教授＝設計學系、藝術學研究所
- 專攻＝建築設計
- 學內活動＝校園小委員會副委員長/圖書委員
- fukaya.motohiro@nihon-u.ac.jp

- 略歷＝1942 年出生 1983 年日本大學藝術學部美術學科畢業
相異於近代以科學技術為中心之傳統木構造建築調查，將棟
樑的思想與技術向後代傳承為主要的研究目的・
- 社會活動＝日本傳統工法研究會會長、日本建築家協會會員（JIA トー
ク委員會實行委員）/日本建築學會正會員・
- 主要擔任教學科目＝建築設計Ⅱ（木構造建築的基本與實踐）
建築設計Ⅲ（古民家の實測 調査・研究）
建築設計論（近代以前與近代以後建築在美意識的差異）
- 木的文化＝“先有選擇素材的考慮，還是先有考慮後而決定素
材”？木材是日本傳統文化的代表，木構造建築的存
在，是因為在日本有著豐沛的木材資源或是木構造建築
是透過人類的思考與想像而存在？從這個看似簡單的疑
問作為研究的出發原點，進行日本木文化本質性的
調查是本人研究的目的・
- 木構造傳統工法＝“木的生命力”其表現與象徵，在於木構造傳統
建築工法的本質，這其中被隱藏的真實性卻是超
越單純的技術層面論述・當然，這是因為人與素
材之間彼此的認識，反映在面對人、自然、生活之
間所存在的關係與想法・對於上述之論點而展開
實證之研究・
- 棟樑的技術與思想＝關於技術此一用語？分別有著被隱藏於科學脈
絡的近代技術與近代成立之後不同於科學脈絡

的傳統技術・在這兩大主要分類的系統下本人
特別關注於傳統技術特別是關於暗示身體與素
材之關係部分而開展出一系列之研究・

主な仕事

● 出版品

棟梁に学ぶ家「図解、木造伝統工法、基本と実践」(彰国社)

図解、木造建築伝統技法事典(彰国社)

間違いだらけの住宅づくり(川辺書林)

週刊日本遺産 NO 0 3 “絵で見る遺産”(朝日新聞社)

週刊日本遺産 NO 1 2 “絵で見る遺産”(朝日新聞社)

週刊日本遺産 NO 4 1 “絵で見る遺産”(朝日新聞社)

● 学術論文

「棟梁の技術思想 ものとひとのかかわる」

「棟梁の技術思想 1 = 基準はスミ」

「棟梁の技術思想 2 = 道具をつくる、手をつくる、身体をつくる」

「棟梁の技術思想 3 = まるごとの生き方」

「棟梁の技術思想 4 = 頭の中にカタチが出来る」

「棟梁の技術思想 5 = 矩は中心から割り出す」

「棟梁の技術思想 6 = 桁はずれな話」

「棟梁の技術思想 7 = 死人の家と方形の家」

「棟梁の技術思想 8 = 秘伝、ねじ組」

「棟梁の技術思想 9 = 大隈流民家解体」

「棟梁の技術思想 1 0 = 大隈流民家復元」

「棟梁の技術思想 1 1 = ミズはどこまでいってもミズ」

「棟梁の技術思想 1 2 = さしもの = さし鴨居」

「棟梁の技術思想 1 3 = 軸は柱のこと」

「棟梁の技術思想 1 4 = 真面目なスミ」

「棟梁の技術思想 1 5 = サンガネと仕口の総括」(以上新建築、共著)

「棟梁に学ぶ家の総括」(住宅特集、単著)

「The Significance of His Teaching Philosophy and Technique The Master Carpenter Work」

(ICCROM 世界保存修復研究センター、単著)

「確認への旅」(1)、(2)(日本建設通信新聞)

「棟梁たちとの出会い—ジャズ派とシンフォニー派」(日本建築会)

「木造建築を知る—実践者に学ぶ—」(建築知識)

「演劇空間論」(私家版)

「伝統技術をどう学び、どう伝えていくか」(月刊建築工事務所)

「伊勢神宮のなぞ」(朝日新聞・週間百科)

● 作品

日本建築学会三島研修所(共作)

住宅、鈴木二三夫邸

● 講演会

シルクロード点描＝私学教育研究所

「棟梁に学ぶ家」に学ぶ会＝日本建築学会

「The Significance of His Teaching Philosophy and Technique The Master Carpenter Work」

＝在ローマ文化会館

「The Significance of His Teaching Philosophy and Technique The Master Carpenter Work」

＝ICCROM 世界保存修復研究センター

棟梁の技術思想に学ぶ＝日本大学生産工学部建築学科

棟梁に学ぶ家と木構造＝日本建築学会

烏山山揚の舞台装置＝日本演劇技術協会

諸井邸フォーラム バウハウスと戦後住宅

＝早稲田大学建築史研究室(山脇巖と作品)

自然の良さを見直そう＝日本伝統工法研究会

深谷 基弘 Motohiro FUKAYA 教授 1942 年生まれ。1967 年日本大学芸術学部美術学科卒業。近代の科学技術とは成り立ちを異にしている木造伝統工法を調査し、棟梁たちの継承してきた技術・思想を後世に伝えることを目的として研究している。専門領域 木造建築の基本と実践(木の文化)、古民家の実測・調査・研究(木造伝統工法)、近代以前と以後の建築に於ける美意識の違い(棟梁の技術思想) 主な担当科目 建築デザインⅡ(木造建築の基本と実践) 建築デザインⅢ(古民家の実測・調査・研究(木造伝統工法))、近代以前と以後の建築に於ける美意識の違い(棟梁の技術思想) 主な担当科目 建築デザインⅡ(木造建築の基本と実践) 建築デザインⅢ(古民家の実測・調査・研究) 建築デザイン論(近代以前と以後の建築に於ける美意識の違い) 製図ⅡA・C

● 主催単位：華梵大學藝術設計學院

華梵大學藝術設計學院建築學系蕭百興主任

<http://www.facebook.com/profile.php?id=1008131026>

*台灣聯絡方式：

華梵大學藝術設計學院建築學系辦公室 張榕紘助理

22301 新北市石碇區華梵路一號

Tel：02-2663-2102、02-2663-2102 轉 4701

<http://www.hfu.edu.tw/>

<http://ac.hfu.edu.tw/main.php>

●協辦單位：日本大學藝術學部

日本大學藝術學研究科、日本大學藝術學部

芸術学部執行部学務担当・海外交流担当

日本大学応援リーダー一部副部長

木村 政司 教授

<http://design.art.nihon-u.ac.jp/research/prof/kimura.html>

日本大學藝術學研究科、日本大學藝術學部

主任 桑原 淳司 教授

<http://design.art.nihon-u.ac.jp/research/prof/kuwabara.html>

<http://www.facebook.com/profile.php?id=100002220037167>

*日本聯絡方式：

〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

Tel：03-5995-8690

<http://www.nihon-u.ac.jp/>

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

<http://design.art.nihon-u.ac.jp/>

日本大学 大学院 芸術学研究科

芸術専攻 藝術學博士候選人

Ph.D. Candidate of Arts Studies in

Graduate School of Art of Nihon University

曾 永宏 (ソウ エイコウ) TSENG, YUNG-HUNG

<http://www.facebook.com/yunghung.tseng>

Mail：yunghung2006@gmail.com

主辦單位：華梵大學藝術設計學院

協辦單位：日本大學藝術學部

[入場無料、自由参加]

考慮席位安排，欲參加者，可先與主辦單位聯繫

.....

